

SKYかわさき通信

第 53 号

「何か面白いことを」

SKY かわさき理事・があでん・ららら所長 鶴田 裕

昨年、勝手に尊敬していた人を亡くした。

小堀真吾さん。横浜の認定 NPO 法人さざなみ会の理事長を務めていた方である。小堀さんの歩みは、ここだけではとても紹介しきれないので他に譲るが、小堀さんは横浜、私たちは川崎で、精神障害のある方の当事者活動、ピア活動をすすめてきた仲間であった。同時に、負けたくないと思っていた。きっと小堀さんは私のことなど眼中になかったと思うので、仲間だと思っていたのも、ライバル心を燃やしていたのも、尊敬していたのと同じように私が勝手にしていたことだったんだろう。

私は小堀さんに会うと決まって、また何か一緒にやりましょうよ、と話した。小堀さんもいつも、何か面白いことやりたいよね、と言ってくれていた。たぶん、直接 2 人で話した最後の会話もそうだったんじゃないかと思う。SKY が制作に関わった映画「不安の正体」のどこかでの上映会のことだった。

ちなみに「不安の正体」では、さざなみ会の職員や利用者の方達が、グループホームの建設反対の幟旗を揚げている住民のもとを一軒一軒訪ね、対話を求めているシーンが描かれている。

そういうことが出来る人だった。

人の痛みが分かり、それを分からず、分かろうとしないことを許せない人だったのだろうと思う。面白いことをやろうと言っても、単純に明るく楽しくキラキラとしたものだけを求めているのではなかった。むしろ、何か面白い活動の奥底にも、社会に対する怒りや疑問、やりきれなさが感じられて、私はそこに魅かれていた。

私はこの法人に来る前、仕事が面白いと感じられたことは多くはなかった。患者さんを駒のようにしか考えずに進むベッドコントロール、圧倒的多数の他職種との何も言えないまま終わっていくカンファレンス、地域に出たと言っても療養病棟と殆ど変わらない、施設での利用者の方たちの処遇。何より、そんな現実に対して何もしていない自分が一番面白くない人間だった。ゆりあすの『グループ法律相談会』についての学会発表を聞いたとき、ここには面白いものがあると思った。縁あってこの法人で職を頂き 13 年、昨年 6 月からは理事も務めさせて頂いているが、その気持ちは変わっていない。しかし 13 年の中で、面白いものは、精神障害当事者一人ひとりの持てる力が發揮されるためにやっていたんだと気付いた。今は、そういう機会や環境を作っていくのが自分の仕事だと思っている。それは、本当に面白い。これまででも、これからも私は当事者の方たちの力に助けられ、励まされ、時に悔しい、やりきれない思いを抱えながら、語り合い、一緒に取り組んでいくことにやりがいを感じていくと思う。

何か面白いことを。私なりの方法で、これからもやっていきたい。



《法人本部からのお知らせ》



令和6年度事業報告

令和6年度は、社会福祉法人 SKY かわさき中期3カ年計画の最終年であった。

前年度コロナが5類感染症移行後、「きたのば」「はっぴわーく」「があでん・ららら」ではイベント企画・製品販売や地域との交流が増え、当年度は更に活気ある活動が展開された。又「紙ひこうき」を中心にバンド(ザ☆チキンハーツ)による音楽活動や、第2回「イカス！スカイ展」での芸術活動等の発表を行ない、当事者の表現活動の場が広がりを見せている。その他、法人の普及啓発事業として6月に開催した「破片のきらめき」ドキュメント映画上映とトークセッションで、100名の参加者と共に芸術に取り組む当事者・関係者の方々との交流や意見交換ができた。

人権について学ぶ取り組みとしては、9月にKP神奈川精神医療人権センターの方を講師としてお招きし、「ご本人の希望、尊厳を重視した支援とは？」と題して研修会を行ない、SKY当事者メンバー・職員共に参加し活発に話し合った。10月には南米コロンビアのアンドレア・パラ弁護士に「ゆりあす」の「法律相談会特別版」にご参加いただき、先駆的な法改正や強制入院の廃止等の取り組みをうかがうことができ、日本での精神医療や福祉の課題を考えさせられた。

事業の拡大や再編の取り組みとしては、10月より「ゆりあす」での移動支援事業活動がピアスタッフを中心に始まった。また、相談支援事業所「ひまわり」と地域活動支援センター「さくらスタジオ」の移転計画が進み、2事業所の取り組みを生かした新しい連携を模索しつつ、実際の活動は次年度へ引き継がれている。

一方グループホームの事業については、急な国の給付の改定発表により大幅な給付の減算と人員配置基準の厳しさに、あわただしく対応を迫られた。今後の「ホームSKY」の事業についての課題整理をするため「ホーム特別委員会」を立ち上げ議論を進めてきた。課題解決には今後も更に検討をする必要がある。

令和7年度事業計画

令和7年度は社会福祉法人 SKY かわさきの設立から5年目を迎える。(1)透明性、公益性を確保し、地域ニーズを確認する。(2)体制整備を行い、経営基盤を安定させる。(3)人材育成と世代交代、の三本柱を事業方針とする。

また、第2期中期3カ年計画(令和7年から令和9年)の初年度に当たる。重点項目としては、①防災対策をすすめる②地域ニーズの確認と法人組織の活性化③経営基盤の安定④人材確保と育成の4点を進めていく。防災対策は、登戸地区の水害時の避難基準と事業所の開所基準の再検討を行なう。地域ニーズの確認と法人組織の活性化としては、地域連携推進会議や地域ネットワーク会議を開催し、各事業所が積極的に外部団体・関係者と交流を図る。又、さくらスタジオの今後の運営について検討を行なう。経営基盤の安定としては、利用中のクラウド閉鎖に伴う、新規クラウドの安全な移行を進める。合わせて記録ソフト導入を検討し、業務の効率化を図る。人材確保と育成については、法人全体で当事者雇用等多様な人材確保を図りつつ、現在所属している職員個々のスキルアップを意識し、研修を実施する。



年々深刻になっている福祉事業の経営の厳しさを実感する日々ではあるが、地域での当事者の生活を支える重要な事業を縮小させることなく、安定的な継続と広がりを目指していくなければならない。後を絶たない人権侵害の問題・格差社会の深刻さ・不寛容な人間関係等、生きづらさが広がっている社会の中で人と人とのつながりを拓げ、課題解決に向けて少しでも歩めるよう、今年度も検討を重ね法人の活動を進めていきたい。

ご寄附及び賛助会費 御礼(令和7年1月1日～令和7年4月30日)

○日本基督教団まぶね教会 様 ○柿生地区社会福祉協議会 様
○Asiripal 清水奈保子 様 ○最田 英樹 様 ○カリタス女子中学高等学校 様
(申込書・払込取扱票で「掲載可」にチェックのある方のみ掲載させていただいております)
計 178,000 円のご寄附をいただきました。

令和6年度寄附金及び賛助会費合計額は 348,504 円でした。賛助会費・事業所指定がないご寄附については、普及啓発事業・広報事業等法人運営に使わせていただきました。事業所指定があるご寄附については、各事業所それぞれの事業所運営に使わせていただきました。ありがとうございました。

画龍点睛

物事を成し遂げるために重要な最後の仕上げという意味のこと。

評議員の皆様のひとことコーナー

Vol.8



ちょっと思い出してみた

評議員 三村 健

1995年、市民団体として社会的に動き出した。2005年、NPO法人になった。2020年、社会福祉法人になった。それから5年。今年は節目の年。少し思い出してみよう。

私は、1993年武田病院に入職してすぐ「精神科デイケア」の立ち上げに携わった。それと平行して「川崎市社会復帰ニード調査」の調査員として月1回の全市的な会合に参加することになった。そこには、川崎市精神保健課や川崎市リハビリテーション医療センター、各区保健所のソーシャルワーカー、あやめ会の会長、東大の教授などなどそうそうたる面々が集って、毎回熱い議論が交わされた。そこへ麻生保健所のSWから「農園を福祉で使ってもらえないか」という話があるとの情報がもたらされた。今の『があでん・らら』の誕生となる。また、当時中野島にあった『川崎きた作業所』に立ち退き要請がなされ急ぎ移転先の物件探しをした。今の「きたのば」の前身だ。

そして1996年、「北部地域にグループホームを作りませんか」との声に「あんじょうやりや」が市民団体『たま・あさお精神保健福祉をすすめる会(1995年)』を設立母体として誕生した。

1998年精神科ソーシャルワーカーたちは国家資格化された「精神保健福祉士」の資格試験に臨み、1999年行政機関や精神科病院・クリニック、精神障害者福祉施設等のソーシャルワーカーの多くが資格を取得した。これによって精神保健福祉士の大移動が始まった。ベテランの何人かが教育機関の教授や講師となり転職していき、大勢入れ替わった。精神保健福祉法の改正も何度も行われ障害者総合支援法が成立、障害者福祉事業の予算配分も大きく変わった。

……この30年間、目まぐるしい変化の連続だったなあ。

コロナ禍の中、みなさんよくぞ活動を継続できたなあ。

思いは大事だけど、一時の「気持ち」より、職員たちも利用者の皆さんも、みんなが安心できる「仕組み」を作ってきたと思います。「安心」の中身や基準は時代の流れとともに変わっていきますが、これからも「安心」をこころがけていきたいです。

研修委員報告 令和6年度業務報告会を開催しました！

令和7年2月26日、今年は「伝えたい 私たちの活動」をテーマに4事業所が発表を行いました。

きたのば 「作品ができるまで～自主製品の紹介～」

さくらスタジオ 「私の推しプログラム～メンバーがお勧めするプログラムの紹介と参加する想い～」

はっぴわーく 「続・だけじゃない。はっぴ！～メンバーの伝えたい思いを発表します～」

紙ひこうき 「飛べ！紙ひこうき～前年度と今年度、地域で取り組んできた活動を皆さんにご紹介します～」

発表者の皆様が楽しそうに一生懸命に発表され、「伝えたい」という想いにあふれた報告会となりました。発表してくださった皆様、ありがとうございました。アンケートでは、「皆さん生き生きと楽しんでいる様子がよく伝わり、こちらも楽しい気持ちになりました」や、「自分の仕事に誇りややりがいを持っていることが伝わってきました」といったご感想をいただいています。一方で、「楽しさや良さだけでなく、辛さ・悲しさ・痛み・怒りといった感情も共有したい」というご意見もいただきました。日々の支援の中で、事業所を利用されている方々の想いを引き出す「対話」や「働きかけ」の重要性をあらためて実感した報告会となりました。

ご利用者の皆様、ご家族の皆様、地域関係者の皆様。ご参加くださり心よりお礼申し上げます。

【研修委員より】 研修や業務報告会の企画・運営に携わってきました。利用者の方々が悩みながらも前に進んでいく姿や、悩みや葛藤の中でも気持ちに寄り添い、支援の質を向上させたいという職員の想いなど、さまざまな想いに触れ、感化されました。これからも「すべての人が自分らしく、豊かに暮らせるまちづくり」を目指し、日々自己研鑽を積みながら成長していきたいと思います。



令和6年度 研修報告～感染対策検討委員会～

今年度、感染対策検討委員会では予定していた研修、発生した場合の訓練をそれぞれ各事業所で実施、研修報告書にまとめ、さらに定期的に開催する委員会にてそれぞれの事業所内で共有した気づきを共有する事ができました。

今年度の研修・訓練のテーマは ①ノロウイルス発生時訓練の復習 ②正しい手洗いを学ぶ としました。感染対策の研修と訓練は「スタンダードプリコーション」と呼ばれる標準予防策が基本になる為、動画視聴により事前学習をした後、それぞれのテーマに沿って訓練を実施、事業所職員でグループワークをする流れにしています。基礎的な知識を毎年反復学習することによって定期的な意識づけをすることもねらいの一つです。

昨年度実施したノロウイルス発生時訓練は復習の意味も兼ねて今年度も実施。各所報告では、新入職員など昨年度の訓練時に嘔吐物処理キットに触れる機会が十分でなかった職員を中心に経験ができるよう事業所内で調整して訓練（ノロウイルスが発生時の処理方法）を行いました。指定講座の動画を観てから訓練に臨むものの、イメージ通りにいかなかつたという声が多く、定期的に繰り返し、疑似体験を通じて学ぶ時間を設ける必要性があるという声がありました。

また今年度は感染対策の基本に立ち返って、「正しい手洗いを学ぶ」というテーマでも研修と訓練を実施しました。内容としては国立感染症研究所チャンネル「正しい手洗い」動画視聴と動画内で紹介されている「正しく洗えているかどうかのチェック（絵の具と手袋を使用）」を参考に正しい手洗いの手順の訓練を実施、事業所職員でグループワーク（動画と訓練の感想共有）を実施しました。各所の報告では、動画の内容がわかりやすく、ほとんどの職員がはじめて経験する訓練だったにもかかわらずスムーズに研修を実践出来た、という感想が多数ありました。メンバーと一緒に実施した事業所もあり、今後の定期的な注意喚起に適したテーマであることが確認出来ました。

今後とも感染対策の重要性を職員一同が共有し、安心・安全な環境づくりに努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北部地域生活支援センター ゆりあす

演劇ワークショップ

「一人ひとりの物語を見つめる」



ゆりあすメンバーの中には、演劇の経験がある人、実際にいま活動をしている人、興味がある人などから「やりあすで演劇をやりたい」という声が以前からありました。

2014年から「増野式サイコドラマ」を行っていたので、「演じる」ことに対して馴染みがあるものの、プログラムとしては、なかなか演劇を取り入れることができないでいました。

そんな中、神奈川県障害者芸術文化活動支援センター主催のアーティストによるワークショップの企画を知り、応募すると・・・なんと、ゆりあすが当選！！採択されてメンバーと驚喜しました。

OUTBACKアクターズスクール中村マミコ校長とアシスタントのスクール生と共に、自分の物語を見つめ表現し、共感し合った3日間。心躍った演劇ワークショップの思い出を写真と一緒に紹介させてください。



1日目

1/20（月）14:00～15:30

言葉を使わずにジェスチャーや相手の表情を見ながら誕生日順に並んでみるなどのゲームを行いました。後半は眼鏡、掃除機などの物や駅、遊園地などの場所を身体で表現し、みんなで見合いました。



2日目

2/17（月）14:00～15:30



グループに分かれて、怒りや嫉妬などの感情を身体で表現します。1人が彫刻家役になり感情のイメージを指示し、他の人々は粘土役となりポーズをとりました。完成したら、美術館のように作品鑑賞を行いました。

3日目

3/17（月）14:00～15:30

「子供の頃の春の思い出」のお題をテーマに参加者それぞれが絵を書き、エピソードを話しました。グループに分かれて、1枚絵を選んで身体で表現してみました。2つの絵のシーンをつなぎ合わせ短い物語もつくりました。



OUTBACKアクターズスクール中村マミコ校長による演劇ワークショップ 10月、11月、1月にあります。ぜひ、遊びにきてください！！

地域活動支援センター

さくらスタジオ

さくらスタジオは4月にお引越しをしました。これまでのワンルームの小さなところでの活動していましたが2LDKのちょっと広くなったマンションの1室で活動しています。まだ定位置が決まりずどこに座ろうかウロウロしていますが、みんなでカーテンを選んだりクッションの色を選んだりと居心地のいい空間づくりに励んでいます。



二人並んでも
広々とお料理
できます。



新しいさくらスタジオは
こんな感じです 😊



窓から見える景色は
緑がたくさんで目に
優しいです(*^-^*)



ようこそ！さくらスタジオへ

和室でゆったり足を伸ばして
映画鑑賞中・・・



新住所：麻生区上麻生6-5-12-107
☆柿生駅徒歩7分 町田方面へ 柿生陸橋の近くです



044-455-6722 (変更ありません)

さくらスタジオの
普段の様子は、
事業所ホームページの
「さくらreports!」や
「Instagram」にて
随时ご覧いただけます！



ホームページ



Instagram
sakurastudio-2016

R6 年度 グループホームの防災訓練の様子を紹介します。

○法人内防災訓練

避難・消火・通報の各訓練に加え、緊急持ち出し袋の中の「防災用簡易トイレ」の使い方を実践しました。

居室からヘルメットを被って避難、消火器がある場所・使い方、実際に消防署へ通報電話をしました。

次に、実際に段ボール製の簡易トイレを組み立て、「防災用簡易トイレ」を設置し、水を使って実践しました。「思ったより早く固まる」「いざという時に分からなかったかも、今日練習できて良かった」など感想がありました。備蓄は用意するだけでなく、使い方を知る事も大事だと参加者全員で確認できた有意義な訓練となりました。



○洪水時避難訓練

ホーム SKY は 2 つのユニットが洪水浸水被害地域に該当しています。該当の2つのユニットの入居者が避難先の別のホームまで移動する訓練を実施しました。6月の蒸し暑い日でしたが、電車・バスを使い、無事に避難先まで移動することができました。避難先では寝袋体験も行いました。「寝袋キャンプみたいで楽しかった」「歩く距離が分かって良かった」「避難場所のホームがきれいで良かった」という感想がある一方で、「駅からホームまで遠かった」「来るだけで疲れた」「実際は雨の中を歩くだろうから大変」といった、実際の避難時の課題を実感する声もありました。避難には 1 時間弱を要しました。高齢化や体力の低下に伴い、移動が今後ますます困難になっていくことを改めて認識しました。より近隣の避難先の確保という課題も見えてきました。今後も定期的な訓練を続けながら、いざという時に安心して避難できるよう、ホーム全体で備えていきたいと思います。



ジャムのラベルをリニューアル

R7 年 2 月より、はっぴのジャムのデザインがリニューアル！！

今までのデザインもおしゃれで好評でしたが、ラベルを貼る工程の中でリボン結びに苦戦する利用者の姿もあり、もっと効率良く、ラベル貼りができるのか…と悩み、はっぴジャムを長年デザインして下さっているデザイナーさんにご相談…。

出会いは 10 年以上前、とある福祉事業所の会議に参加していた時のこと、はっぴジャムのラベルデザインを募集していることを知り、障がいを抱えながらも良い物を作っていく姿勢と当時のジャム担当者に心動かされ、デザイナーとして何か力になれるのではないか？という思いがあり、協力して頂けたと伺いました。

はっぴのジャムが出来るまでには農家さんから始まり、利用者による製造、販売先を提供して下さる地域の方々や JR 関係者の皆様など、たくさんの方々の支えがあり、成り立っているのだと改めて実感しました。長く愛されるジャムを継続していくには今後もたくさんの支えがあってこそ！！周囲への感謝の気持ちを忘れずに新ラベルになっ

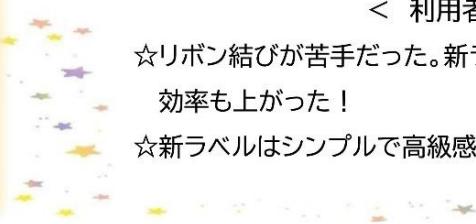
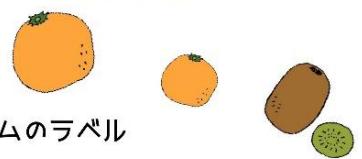
ても変わらず、はっぴのジャムをよろしくお願いいたします。

多摩区登戸 2959

TEL/FAX 044-299-6367

就労継続支援 B 型事業所

はっぴわーく



< 利用者の声 >

☆リボン結びが苦手だった。新ラベルになり、時間短縮になり、

効率も上がった！

☆新ラベルはシンプルで高級感があってかっこいい！



新ラベル（左：キウイ／右：梨）

.....みんなの広場.....

～ SKY メンバーの投稿コーナー～

SKY メンバーの日常を切り取ったホットな投稿をお送りする「みんなの広場」

おもいのこもった素敵なおみやげが集まりました。お楽しみください！



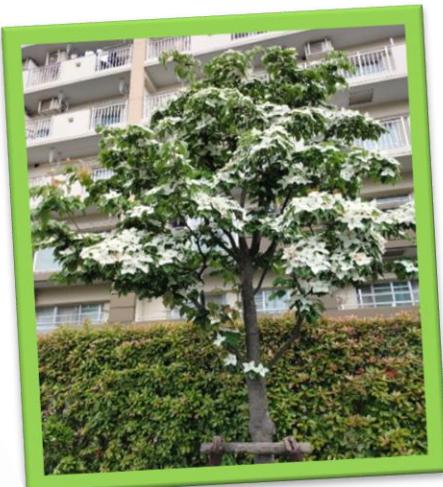
「うさぎの貼り絵」

ホームSKY H



「ビワの木」

ホームSKY 山崎



「5月に咲いていた花」

ゆりあす まるこ



「女性画」

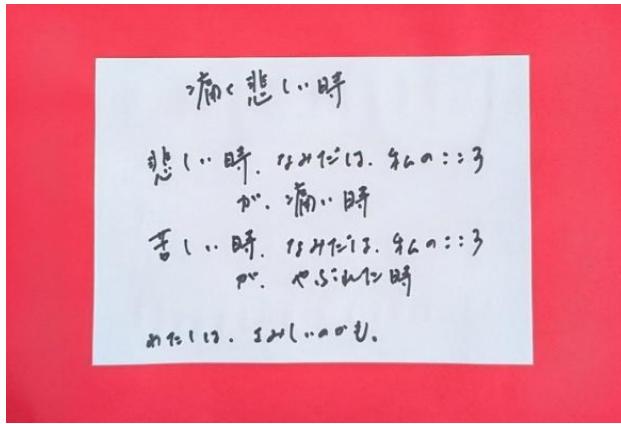
ゆりあす 雅道

「カントリーミュージックバンド」

ゆりあす 土屋 郁

日本のカントリーミュージックバンドの
Wildwood Rosesのボーカル、横地みほさんと。
熊本阿蘇にある野外劇場アスヘクタにて。
2012年10月21日撮影。
彼女がカントリーにはまつたきっかけは、
専門学校でジャズボーカルを習っていた時に、
カントリーのレコードで歌う楽しさを知った時。
私がいと頼まれた時の事だったらしい。
高田馬場のDINSER-カフェで歌ってもらひて
5回位歌いました。





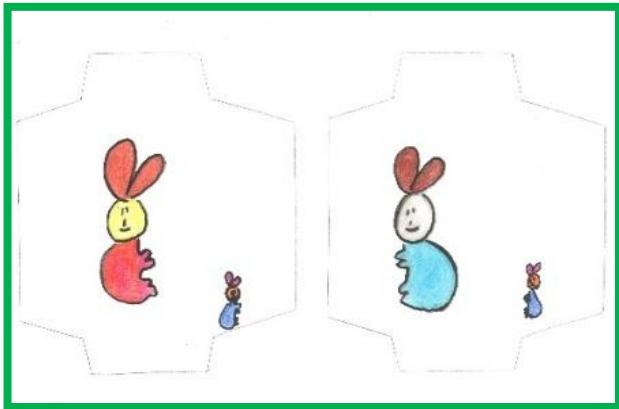
「痛く悲しい時」

ホームSKY めぐみ



「入院中に模写した」

紙ひこうき やさぐれ まり



「みんなにかわいがってほしいところ」

きたのば もんちゃん

えこひいきはしない
時間は世界共通
二十四時間
えこひいきはしない
不思議だね
降り注ぐ宇宙のリズム
えこひいきはしない



「えこひいきはしない」
紙ひこうき 夢路

ホワイトボードのワードドキュメント
レーマー、じーまー、わたくし、わたくしはーんちゅう、び
水ヒタヒヤモニードと手作りのおりにまつり
ヒテリードの包み 紙版。
講師控え室によく質問に行つた。
朝行くと、コニセニの葉子へこを
ハクハク先生は食べこいた(むせり食べ
野菜)集中講義(ワクス マスの 24, 25日)
には誰もいない講師控え室で仁
スタントコーヒーを先生は一口で飲
んでいた。本務校の学生が訪ねて
来てく山たみたる、先生は喜んでいた。
お昼休みにウトウト講師控え室で眠
る先生に声を良く掛けに行つた。
大字の教員の研究室も独房だよある
先生はケーリー理論の図とのシレンマの
説明をしながりやつた。言った。
だから、言語学研究室 ほのか。
先生に質問に行くと、「ホワイトボード
うない。キミが」頭やて教えでくわ
と先生は行つた。また。
開門のこつけは結構難しくて良くわ
からなかったのでいつもお休みを取ります。アラバ
ラダン)またははーにに行く前に登戸のベニチヨ
崖と空を見ていると、「ハハ」Xかんせん
ひいたハトが地面にいた。エナ
シートリニカを片手に抱えてた女性
がいた。またはののみちみたるに
上手にサテークンアイスクリーミーを
食べらかむない。オシャレに食べ始めた。

「登戸駅バスターミナルにて」

きたのば 長谷川 誠



「アイロンビーズ」

ホームSKY きょうこさん





次回のつぶやきは?? きたのは 鹿野さん

「インドア派か?アウトドア派か?」と言われたら、私は圧倒的にインドア派。だと思っていたが、よく考えると、「インドアな趣味のために積極的に外出する派」である。私が好きなものは漫画・アニメ、映画、舞台・ミュージカル観劇、ディズニー。心が震える「感動体験」をすることが大好きだ。そのために都内や各地、積極的に出かけている。

反面、それらに関連する映像を観るために、家でじっとテレビに向かっていることも多い。

屋内で座っている趣味ばかりだが、「好きなことをするには体力が必要!」と最近痛感している。その世界に没入するには想像力が必要で、そのためにはゆとりがない。観劇・鑑賞で2~3時間集中力を維持するにも体力がいる。感動してカーテンコールで拍手しすぎて翌日腕が筋肉痛。オペラグラスで首が凝る。ディズニー歩き回った疲れがとれない。

好きなことを続けるために、体力作りに筋トレでも始めていこうと思う。・・・明日から。

第22回 ハーブまつりを開催しました!

今年度のハーブまつりもたくさんの方にご来場いただきました。出展内容としては、昨年度に引き続き大人気の焼きそばやハーブソーセージなどに加え、今年度はグルテンフリーのクッキーや唐揚げ弁当等の出店や、切り絵、手芸創作のワークショップ、ボッチャなどお子様にも楽しんでいただけるような出店など、幅広いラインナップから皆様に楽しんでいただけたのではないかと思います。

準備の段階から地域の皆様との話し合いも交えつつ、メンバーの皆さんと、職員ともに力を合わせ、当日を迎えました。参加してくれたメンバーさんからは、「準備は大変だったが達成感があった」、「商品がたくさん売れて嬉しかった」などの感想に加え、反省点や改善点など、たくさんの意見をだしてください、皆で協力して良いイベントにしたいという熱意を感じるハーブまつりとなったと思います。

ご来場くださった皆様、ご協力いただきました出展者、ボランティアの皆様誠にありがとうございました。
来年度も開催予定となっておりますので皆様のご来場を心よりお待ちしております♪



2025年5月18日(日)

来場者数 約400名 売り上げ 約20万円

編集後記 令和の米騒動。まだまだ続く食品やサービスの値上げですが、いつまで続くのやら…。

秋には美味しいお米をたっぷり味わいたいですね。(す)